

全国の物流量の現状について

1. 全国における品類別地域間流動量の状況

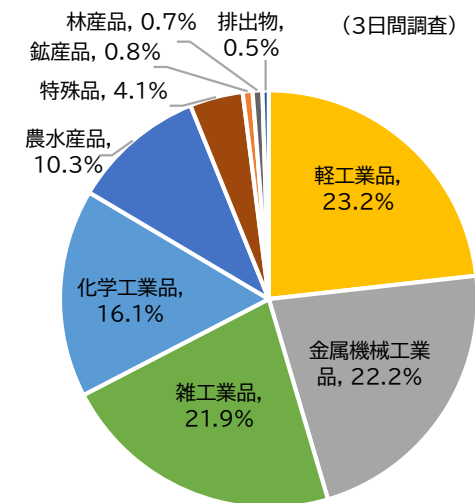
- 品類別流動量は、件数別で軽工業品、金属機械工業品、雑工業品の順に多く、約7割を占める。
- 雑工業品、軽工業品、農水産品の1件当たりの流動ロットが低く、0.5トン以下となっている。

表 品類別流動量・流動ロット ―重量・件数―

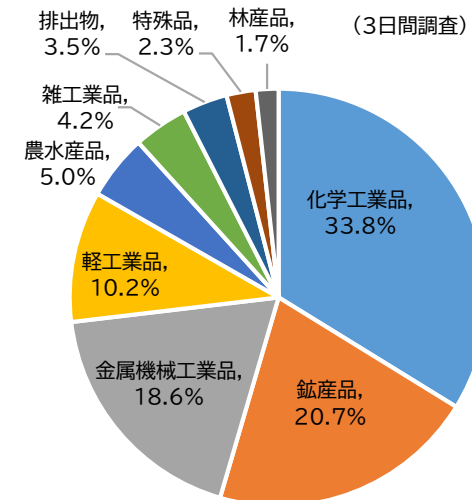
(3日間調査 単位：トン、件、トン/件)

品 類	流 動 量 (件 数)		流 動 量 (重 量)		流 動 ロ ッ ト
	流 動 量	構 成 比 (%)	流 動 量	構 成 比 (%)	
農水産品	2,338,467	10.3%	1,113,069	5.0%	0.48
林産品	167,562	0.7%	387,213	1.7%	2.31
鉱産品	174,418	0.8%	4,597,144	20.7%	26.36
金属機械工業品	5,025,925	22.2%	4,122,206	18.6%	0.82
化学工業品	3,648,033	16.1%	7,491,074	33.8%	2.05
軽工業品	5,246,781	23.2%	2,253,280	10.2%	0.43
雑工業品	4,962,405	21.9%	930,975	4.2%	0.19
排出物	113,377	0.5%	771,420	3.5%	6.80
特殊品	931,526	4.1%	504,876	2.3%	0.54
合 計	22,608,493	100.0%	22,171,258	100.0%	0.98

流動量（件数）構成比



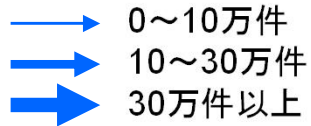
流動量（重量）構成比



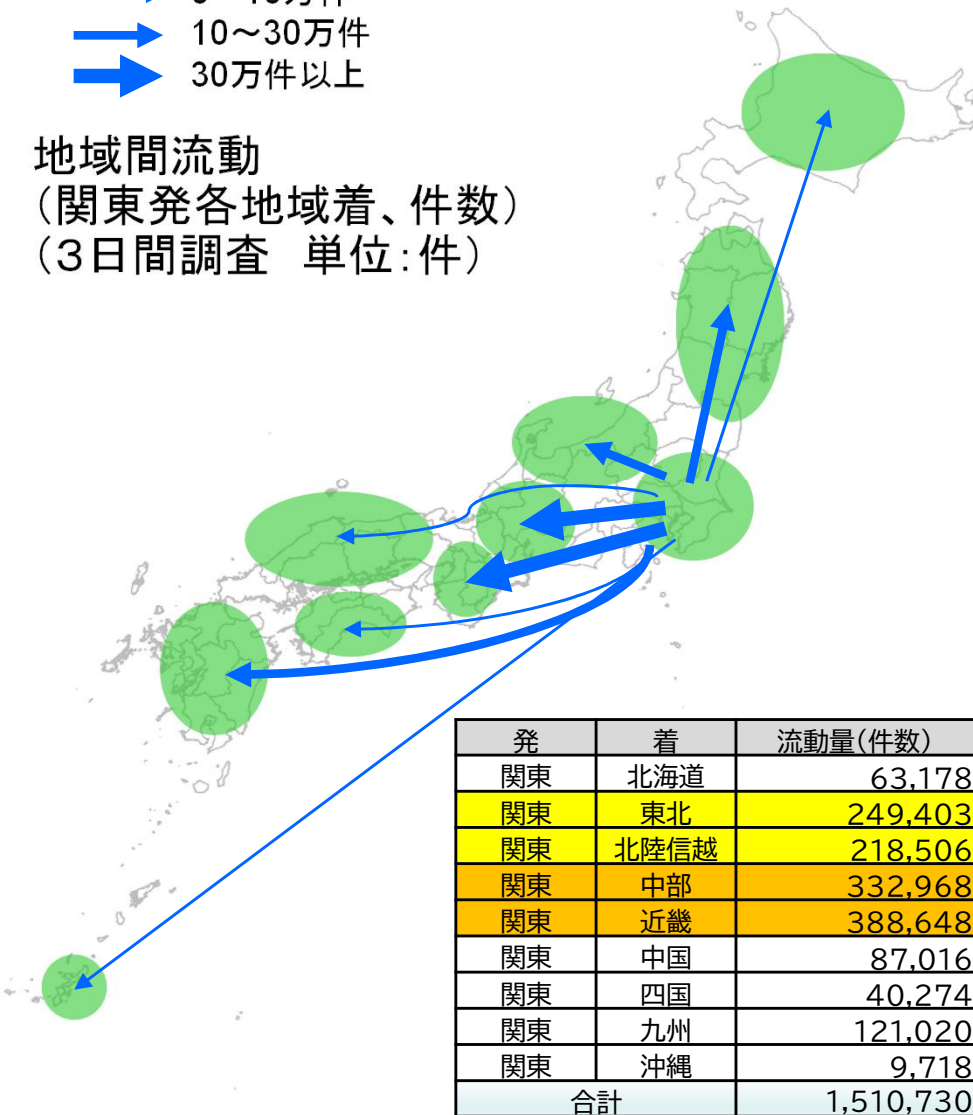
農水産品	麦、米、雑穀・豆、野菜・果物、羊毛、その他の畜産物、水産品、綿花、その他の農産品
林産品	原木、製材、薪炭、樹脂類、その他の林産品
鉱産品	石炭、鉄鉱石、その他の金属鉱、砂利・砂・石材、石灰石、原油・天然ガス、りん鉱石、原塩、その他の非金属鉱物
金属機械工業品	鉄鋼、非鉄金属、金属製品、産業機械、電気機械、自動車、自動車部品、その他の輸送機械、精密機械、その他の機械
化学工業品	セメント、生コンクリート、セメント製品、ガラス・ガラス製品、陶磁器、その他の窯業品、重油、揮発油、その他の石油、LNG・LPG、その他の石油製品、コークス、その他の石炭製品、化学薬品、化学肥料、染料・顔料・塗料、合成樹脂、動植物性油脂、その他の化学工業品
軽工業品	パルプ、紙、糸、織物、砂糖、その他の食料工業品、飲料
雑工業品	書籍・印刷物・記録物、がん具、衣服・身の回り品、文房具・運動娯楽品、家具・装備品、その他の日用品、木製品、ゴム製品、その他の製造工業品
排出物	廃自動車、廃家電、金属スクラップ、金属製容器包装廃棄物、使用済みガラスびん、その他容器包装廃棄物、古紙、廃プラスチック類、燃え殻、汚泥、鉱さい、ばいじん、その他の産業廃棄物
特殊品	動植物性飼肥料、金属製輸送用容器、その他の輸送用容器、取り寄せ品

2. 関東発着における流動量の状況(全品類)

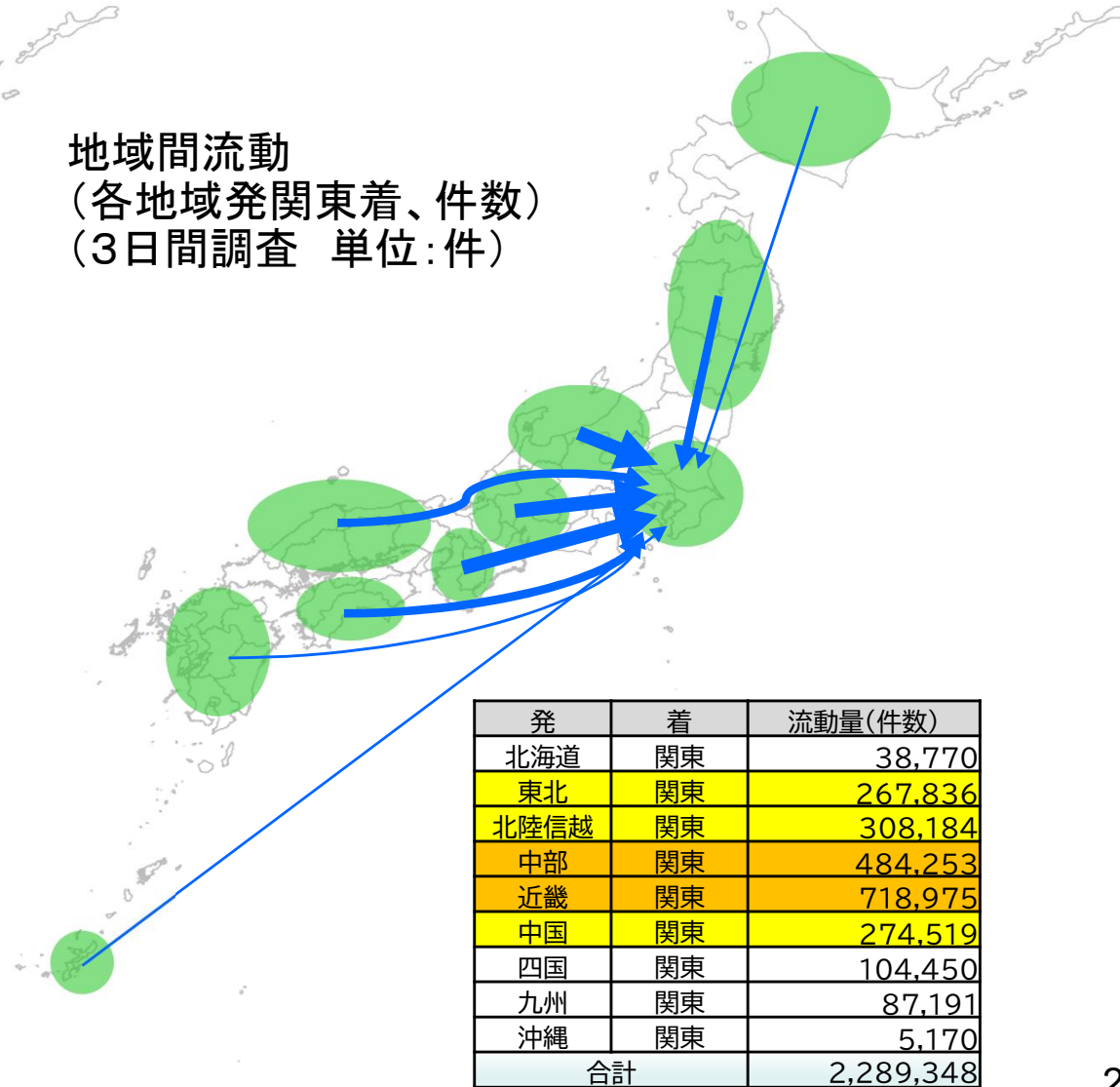
- 関東—近畿、中部間の流動が最も多く、続いて、関東—東北、北陸信越、中国間の流動が多い
- 関東発より関東着の流動が多い



地域間流動
(関東発各地域着、件数)
(3日間調査 単位:件)



地域間流動
(各地域発関東着、件数)
(3日間調査 単位:件)

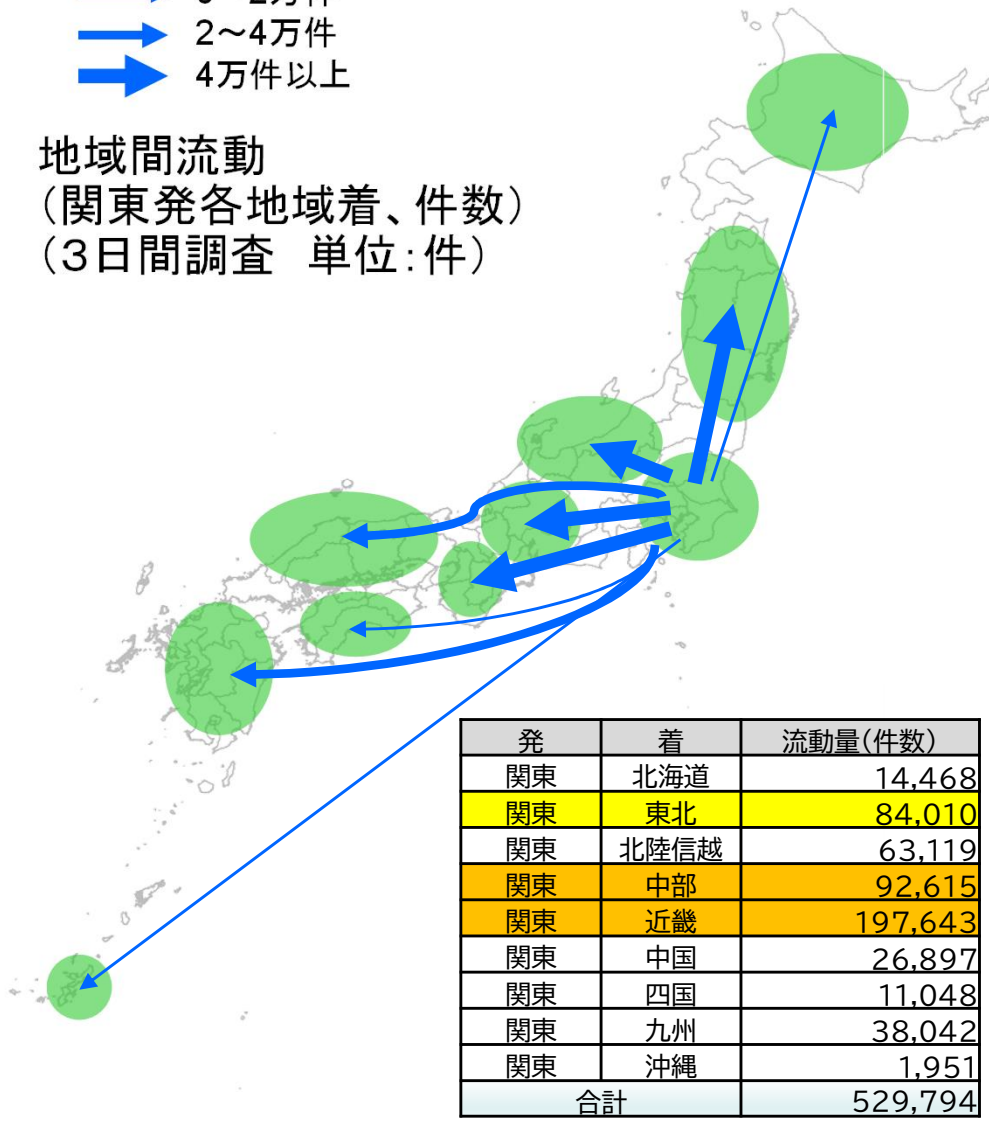


2. 関東発着における流動量の状況(金属機械工業品)

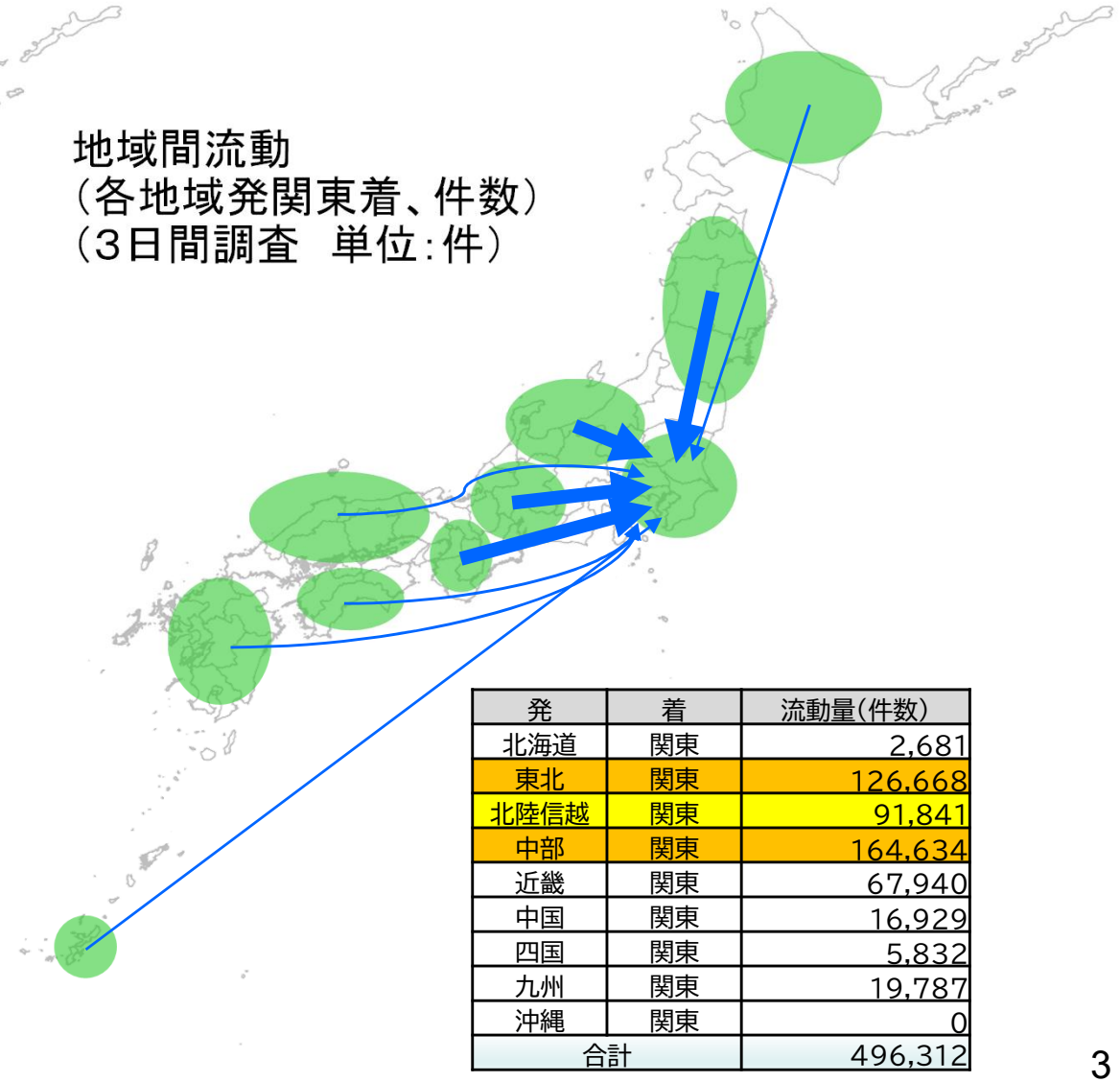
- 関東発は近畿、中部着が多く、関東着は中部、東北発が多い
- 関東着より関東発の流動が多い

→ 0~2万件
 → 2~4万件
 → 4万件以上

地域間流動
(関東発各地域着、件数)
(3日間調査 単位:件)



地域間流動
(各地域発関東着、件数)
(3日間調査 単位:件)

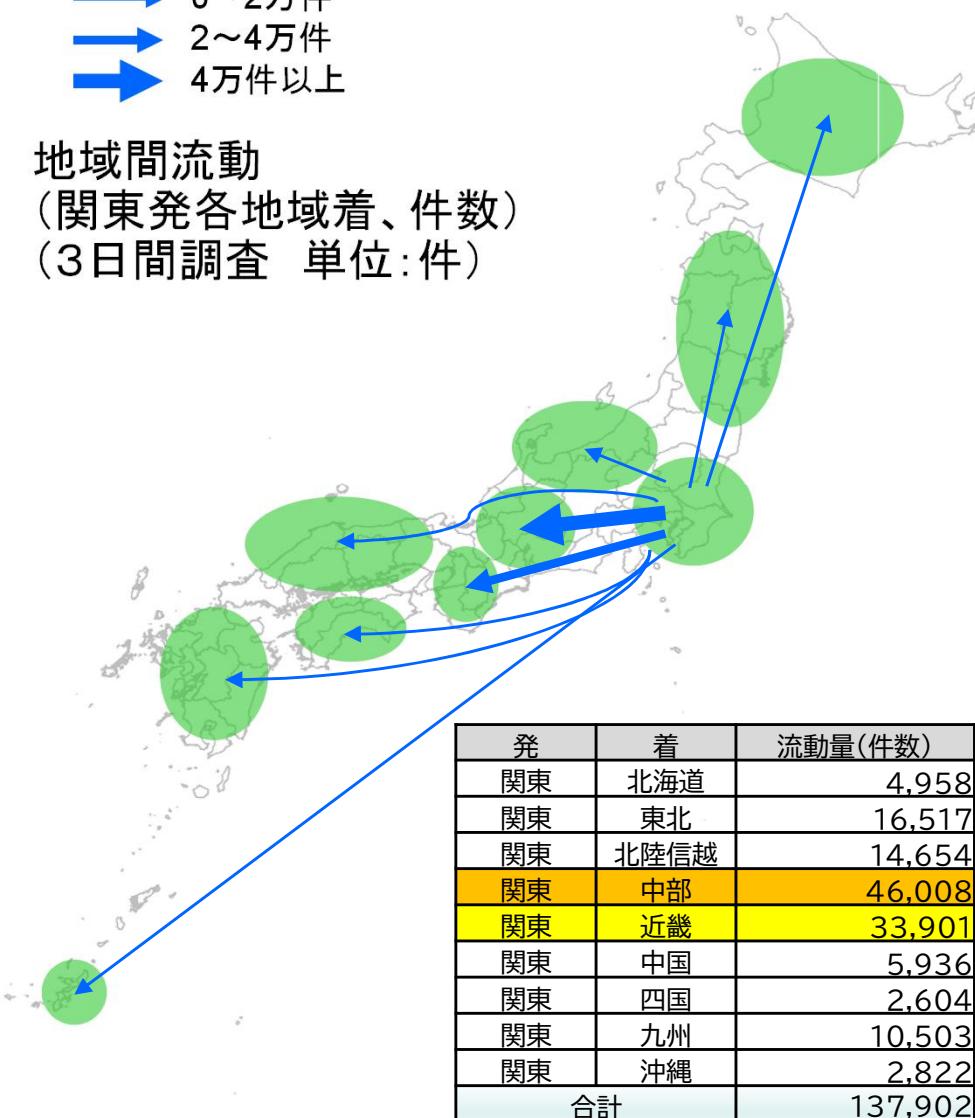


2. 関東発着における流動量の状況(軽工業品)

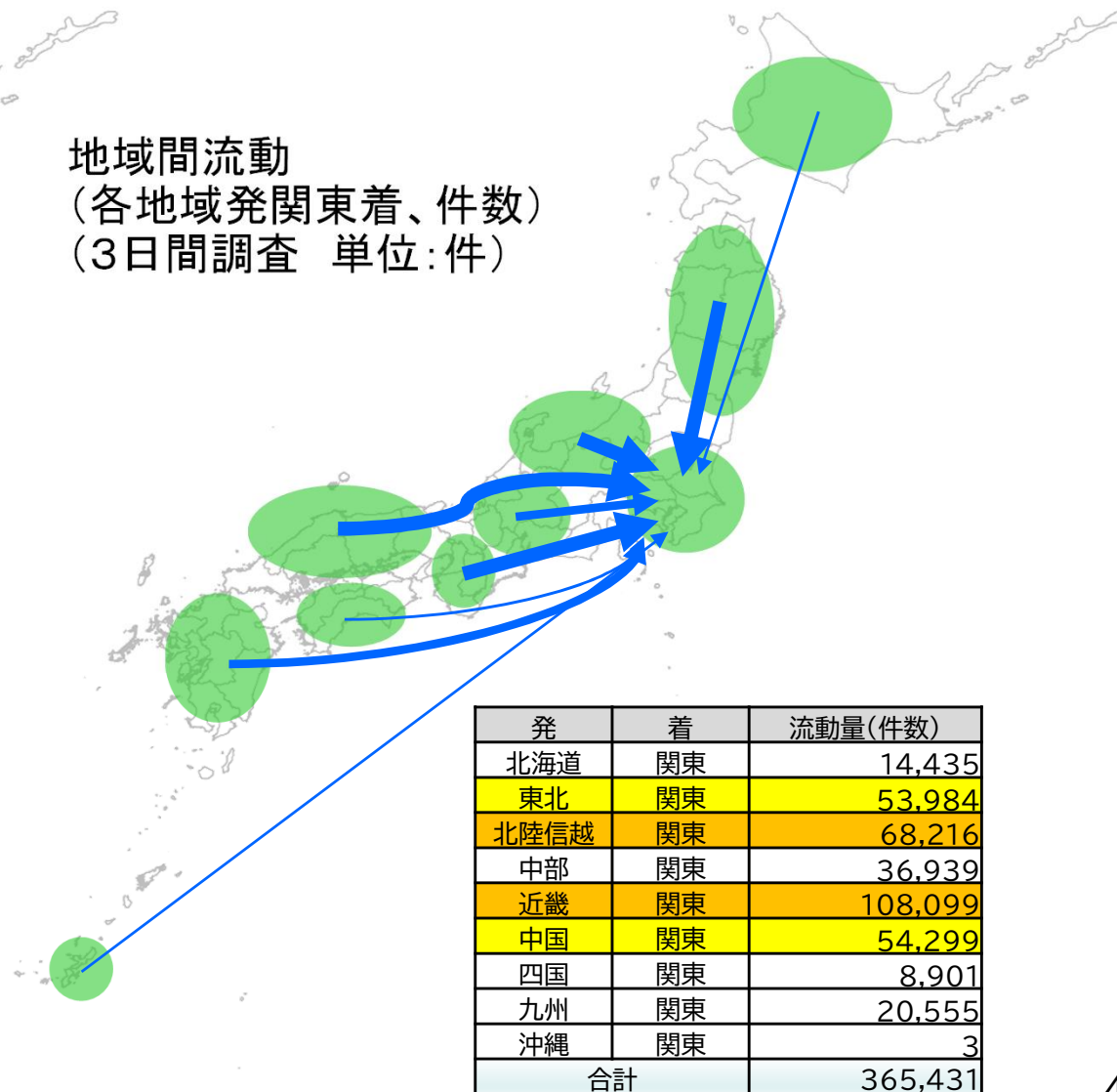
- 関東発は中部、近畿着が多く、関東着は近畿、北陸信越発及び東北、中国が多い
- 関東着が関東発の2.6倍程度と圧倒的に流動が多い



地域間流動
 (関東発各地域着、件数)
 (3日間調査 単位:件)



地域間流動
 (各地域発関東着、件数)
 (3日間調査 単位:件)

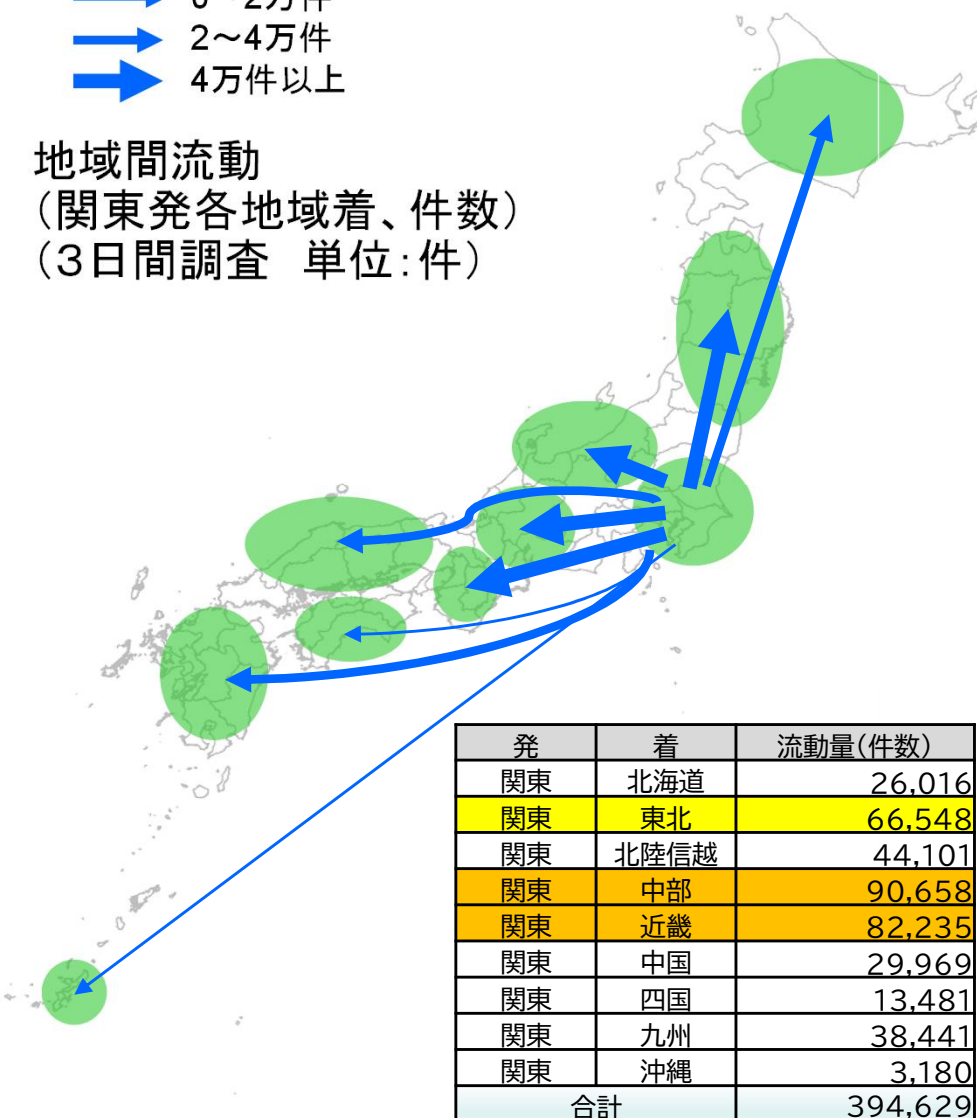


2. 関東発着における流動量の状況(雑工業品)

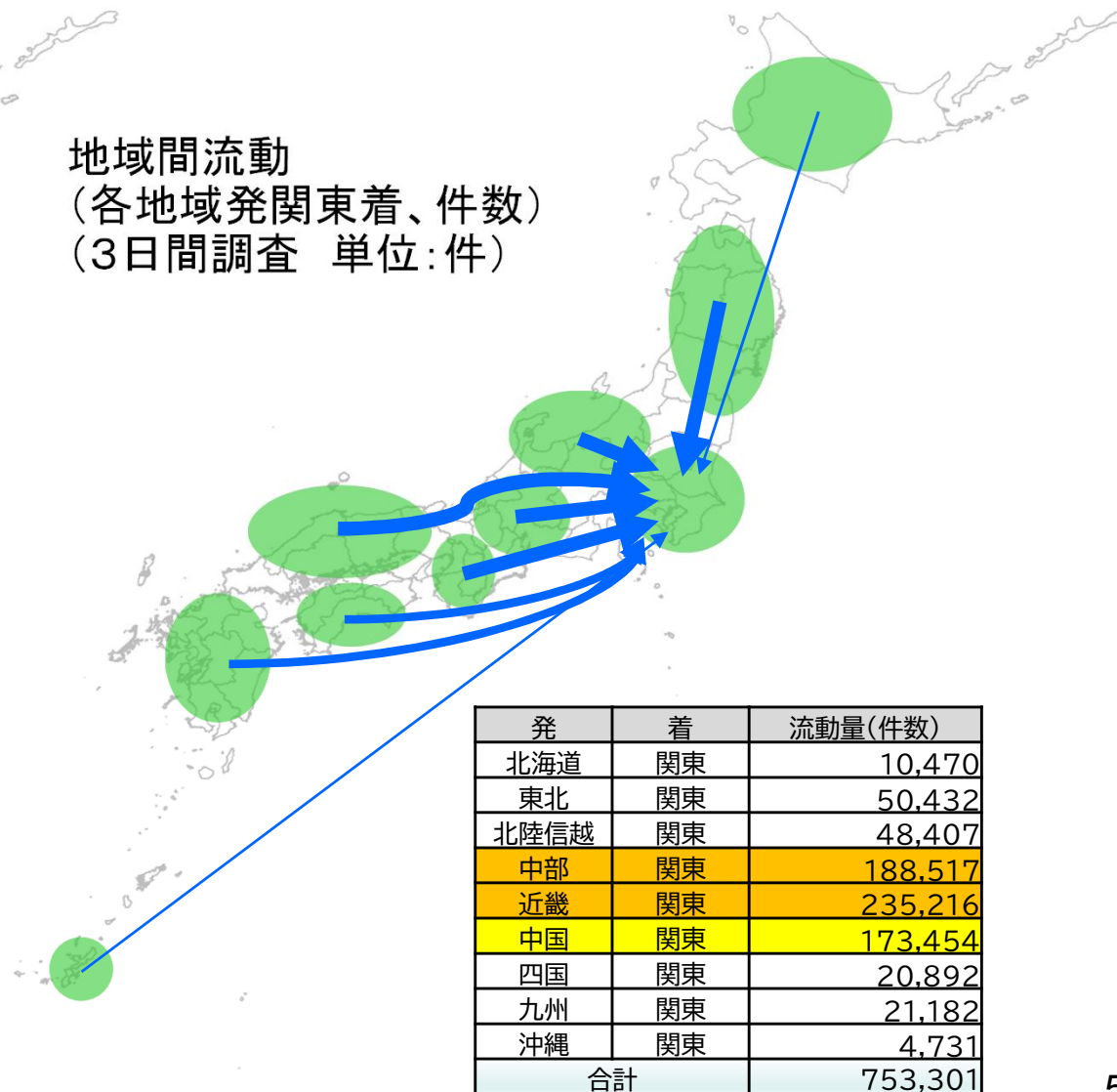
- 関東—近畿、中部間の流動が最も多く、続いて、関東—東北、中国間の流動が多い
- 関東発より関東着の流動が多い



地域間流動
(関東発各地域着、件数)
(3日間調査 単位:件)



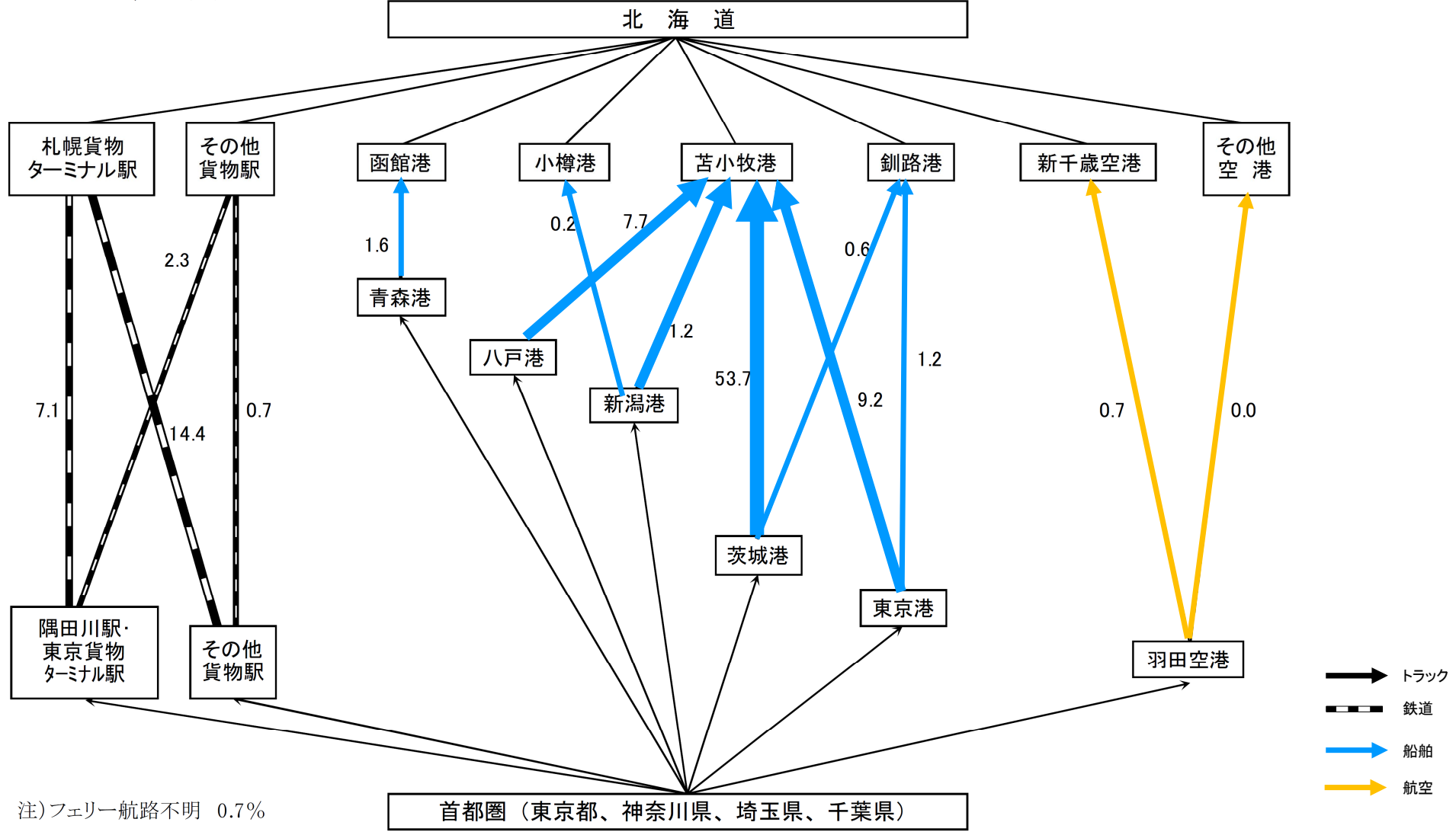
地域間流動
(各地域発関東着、件数)
(3日間調査 単位:件)



3. 首都圏発の輸送モード(首都圏→北海道、軽・雑工業品)

○ 首都圏発北海道向けの場合、鉄道輸送、海上輸送、航空輸送のいずれかを利用することになるが、このうち船舶の利用割合が最も高く、76.1%を占めている。

【首都圏 → 北海道：2015年】
(サンプル：1,761件)



注)フェリー航路不明 0.7%

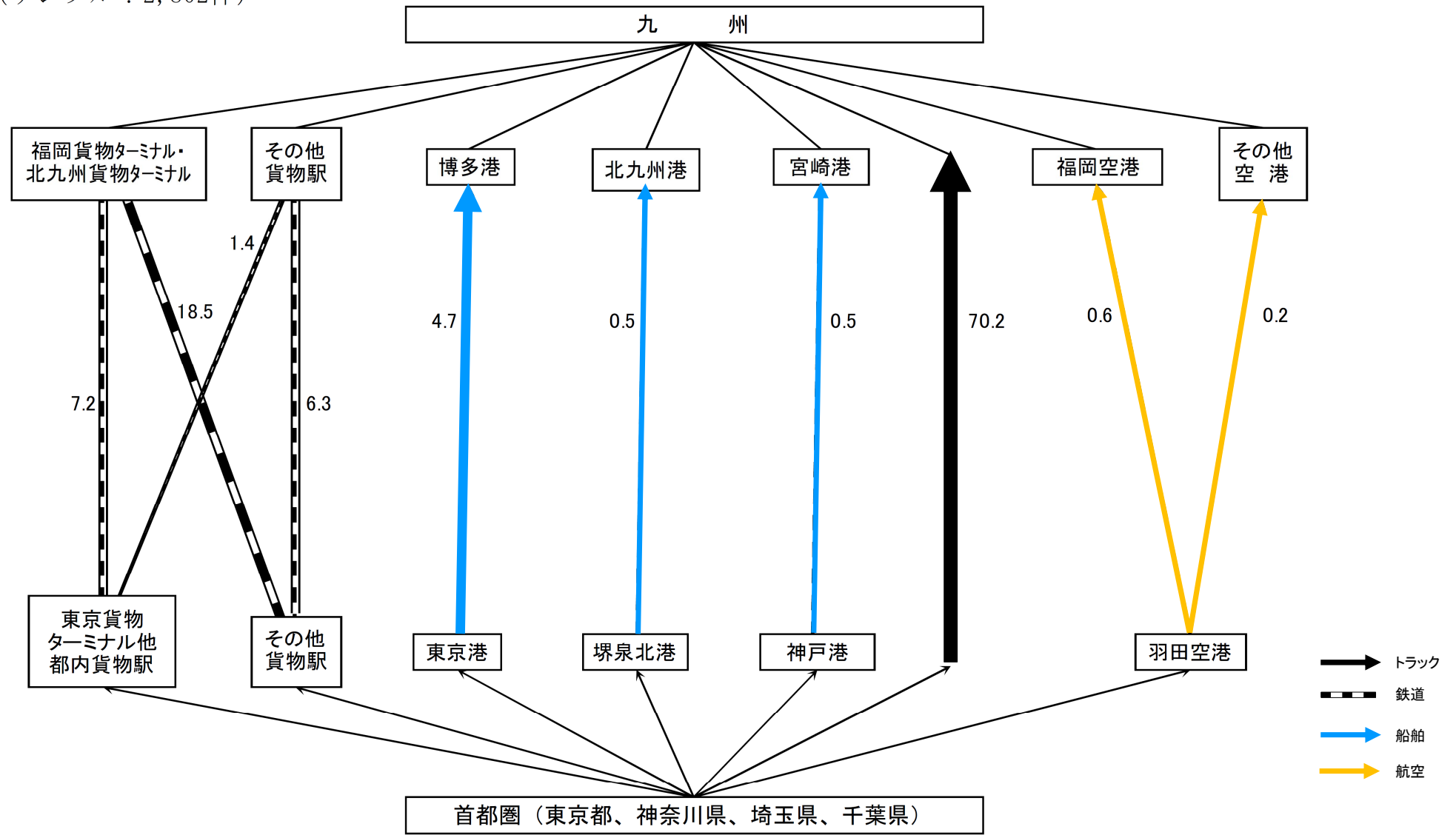
首都圏 (東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)

→ トラック
 - - - 鉄道
 → 船舶
 → 航空

3. 首都圏発の輸送モード(首都圏→九州、軽・雑工業品)

○ 首都圏発九州向けの場合は、トラック利用が70.2%、鉄道コンテナ利用が33.4%を占めており、船舶の利用率は5.7%にとどまっている。

【首都圏 → 九州：2015年】
(サンプル：2,802件)



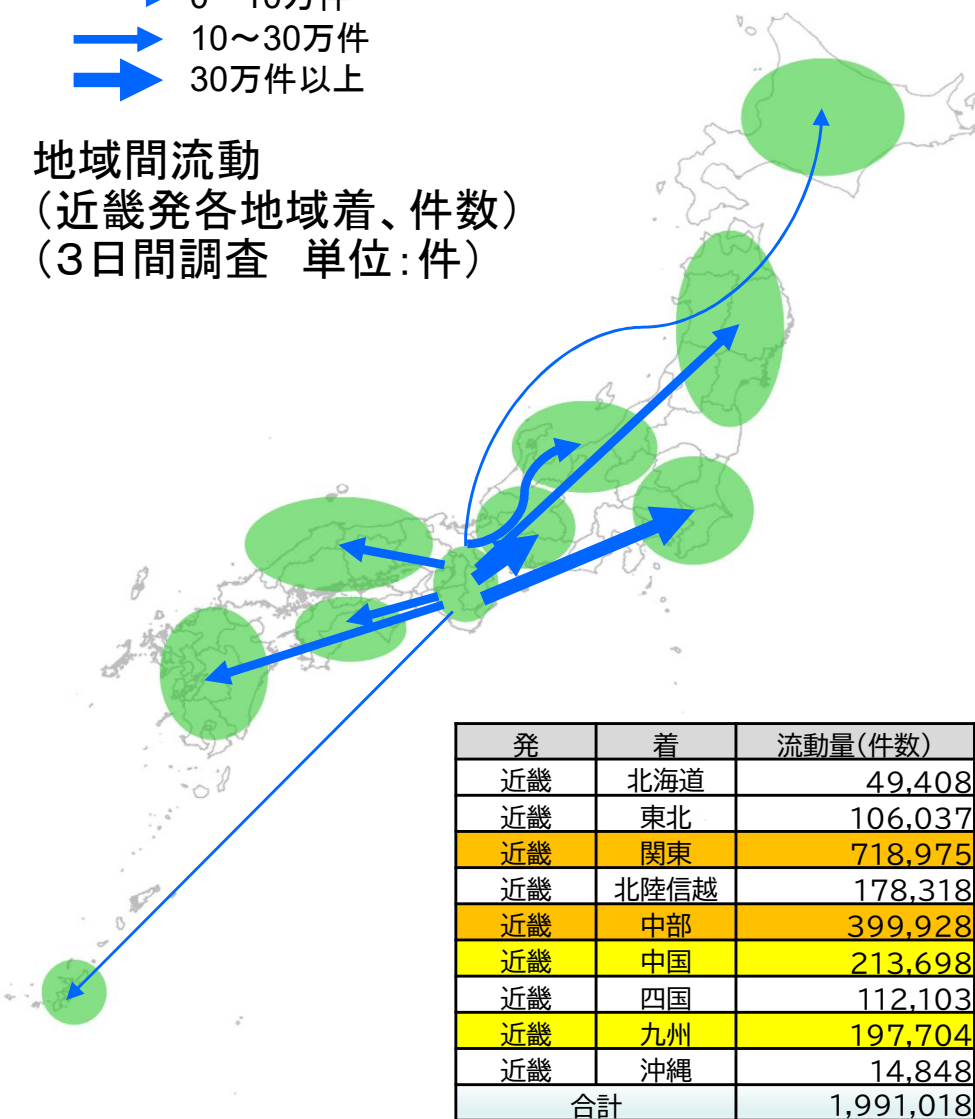
出典:国土交通省「第10回全国貨物純流動調査 報告書」より作成

4. 近畿発着における流動量の状況(全品類)

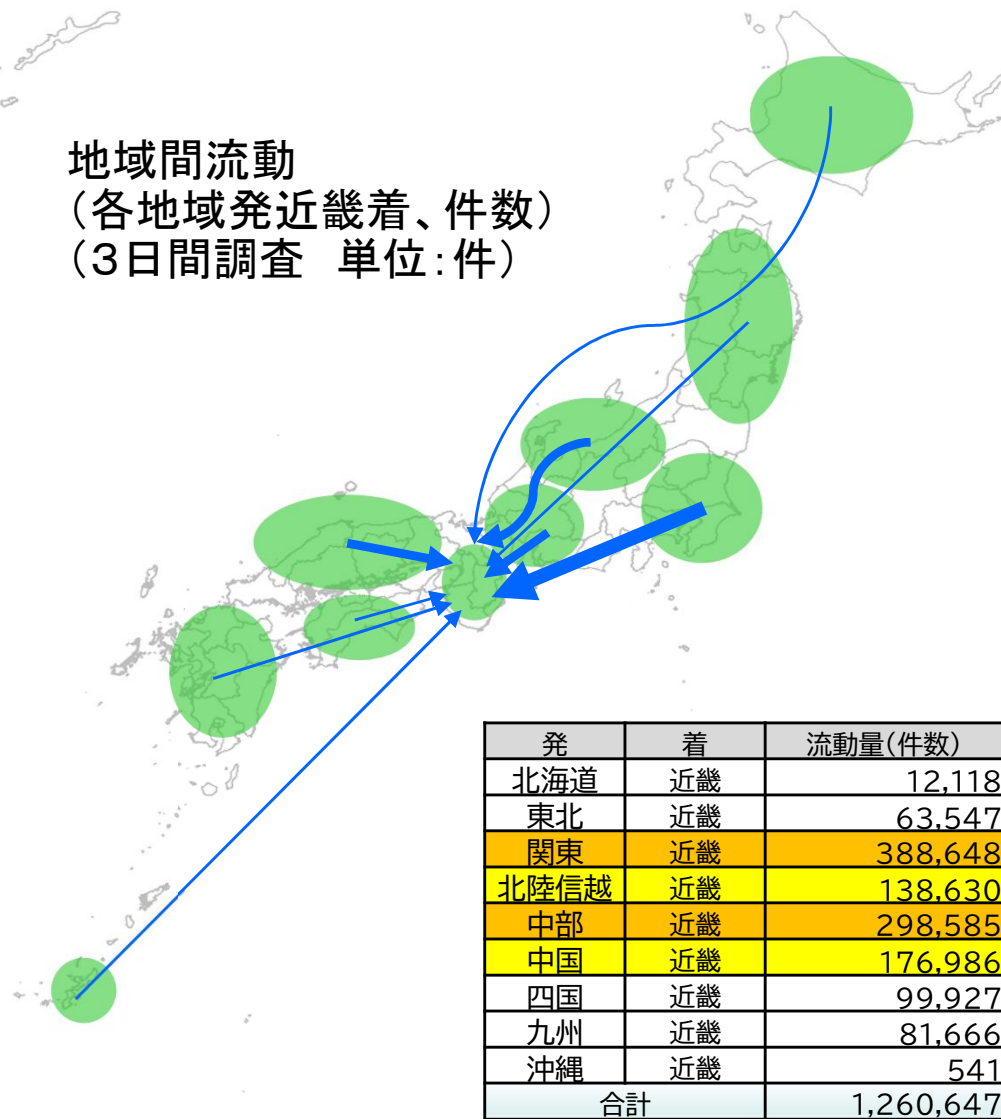
- 近畿—関東、中部間の流動が最も多く、続いて、近畿—北陸信越、中国、九州間の流動が多い
- 近畿着より近畿発の流動が多い

→ 0~10万件
 → 10~30万件
 → 30万件以上

地域間流動
 (近畿発各地域着、件数)
 (3日間調査 単位:件)



地域間流動
 (各地域発近畿着、件数)
 (3日間調査 単位:件)

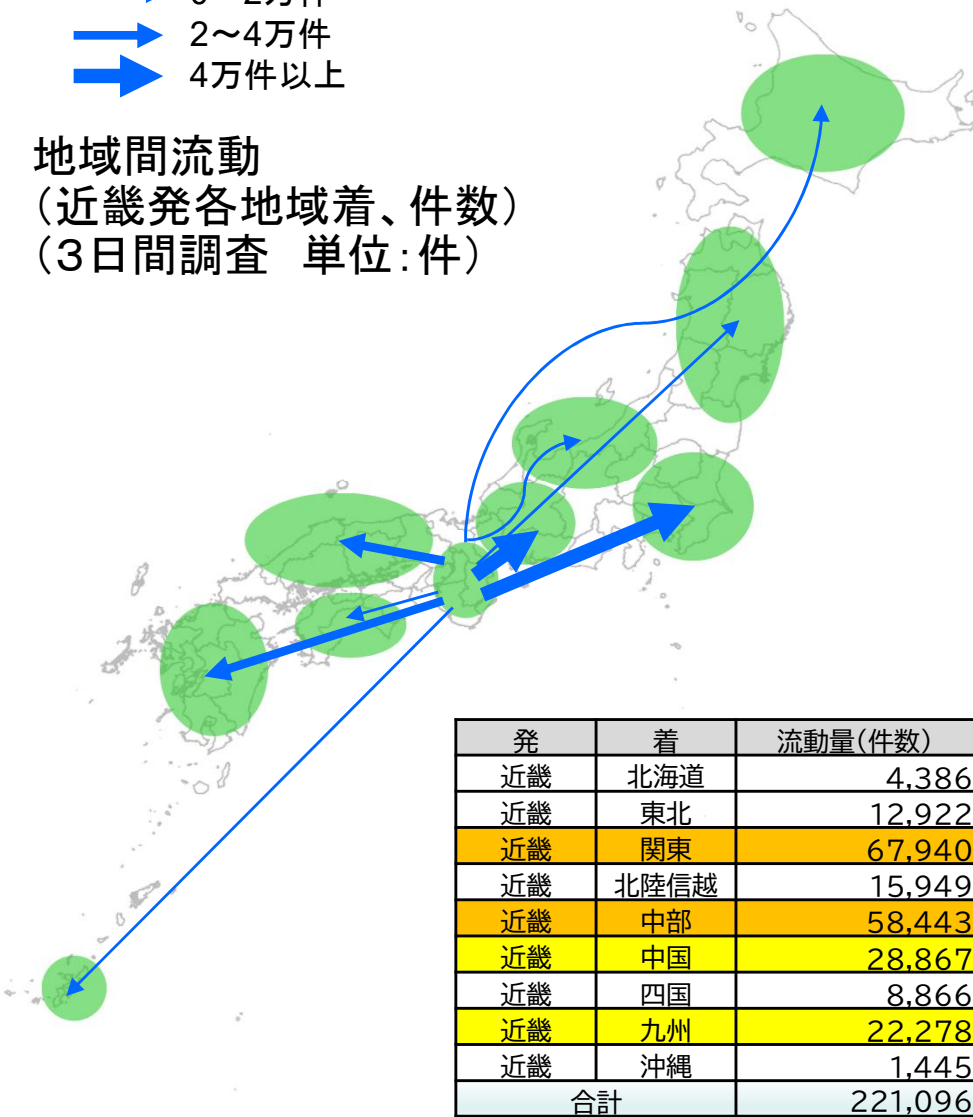


4. 近畿発着における流動量の状況(金属機械工業品)

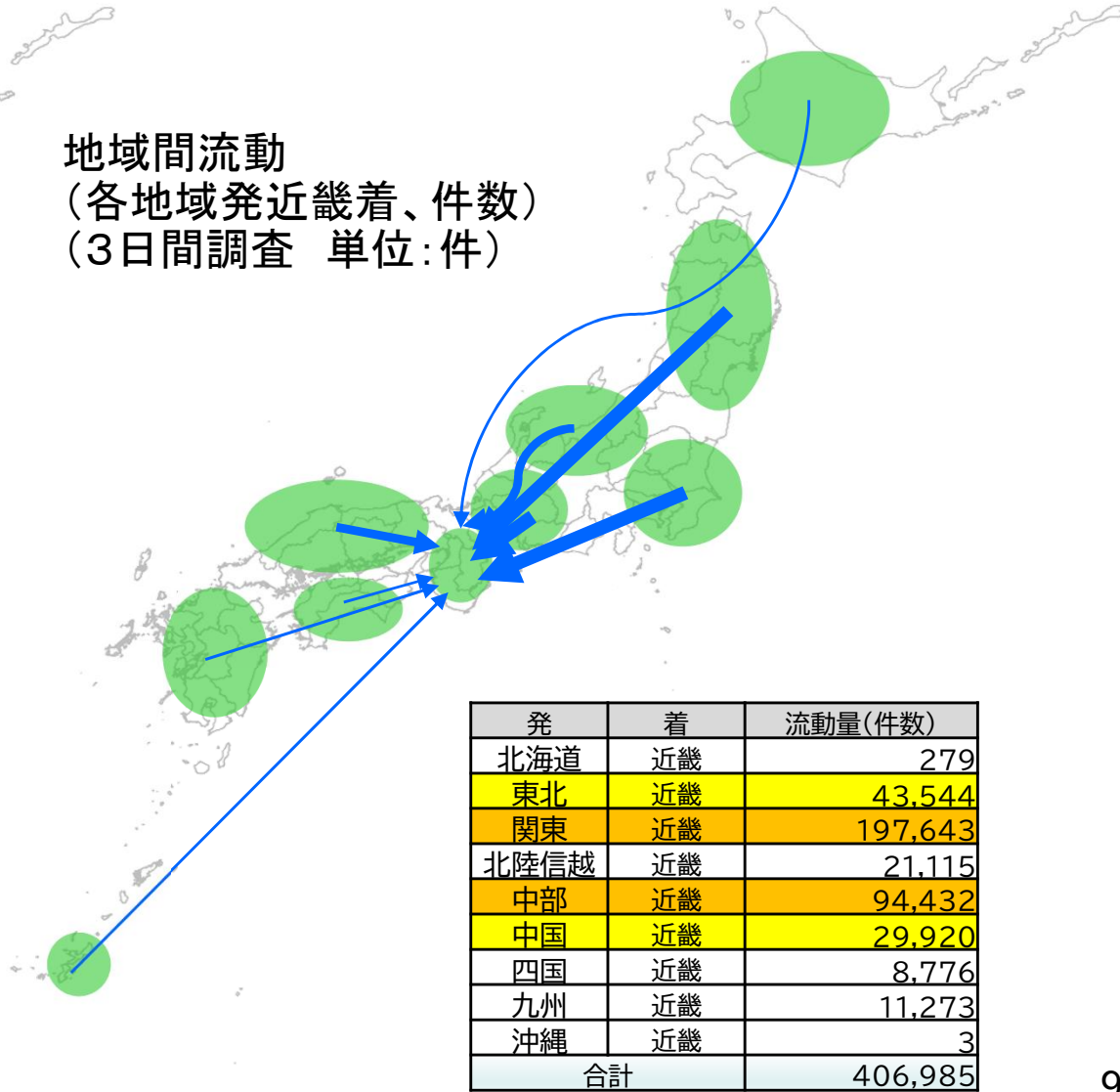
- 近畿—関東、中部間の流動が最も多く、続いて、近畿—東北、中国、九州間の流動が多い
- 近畿発より近畿着の流動が多い

→ 0~2万件
 → 2~4万件
 → 4万件以上

地域間流動
(近畿発各地域着、件数)
(3日間調査 単位:件)



地域間流動
(各地域発近畿着、件数)
(3日間調査 単位:件)

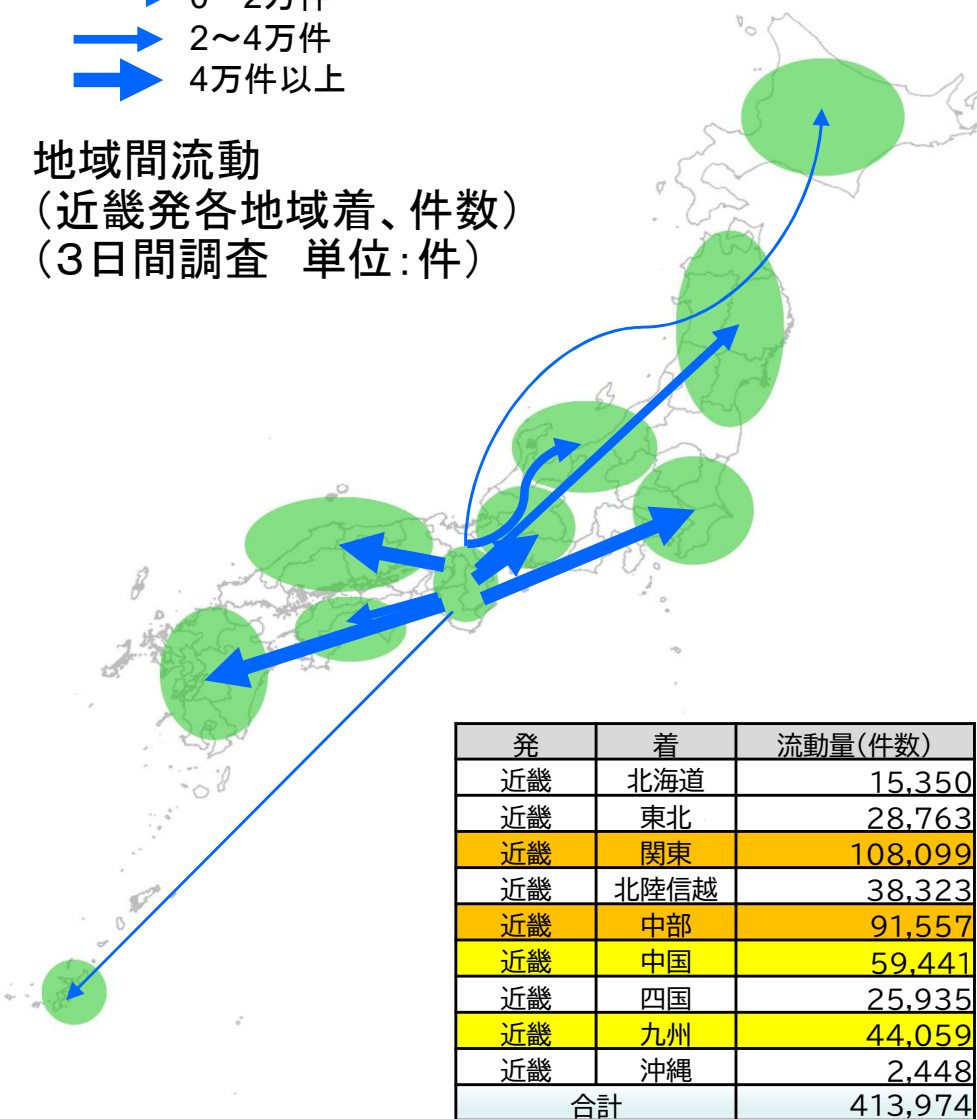


4. 近畿発着における流動量の状況(軽工業品)

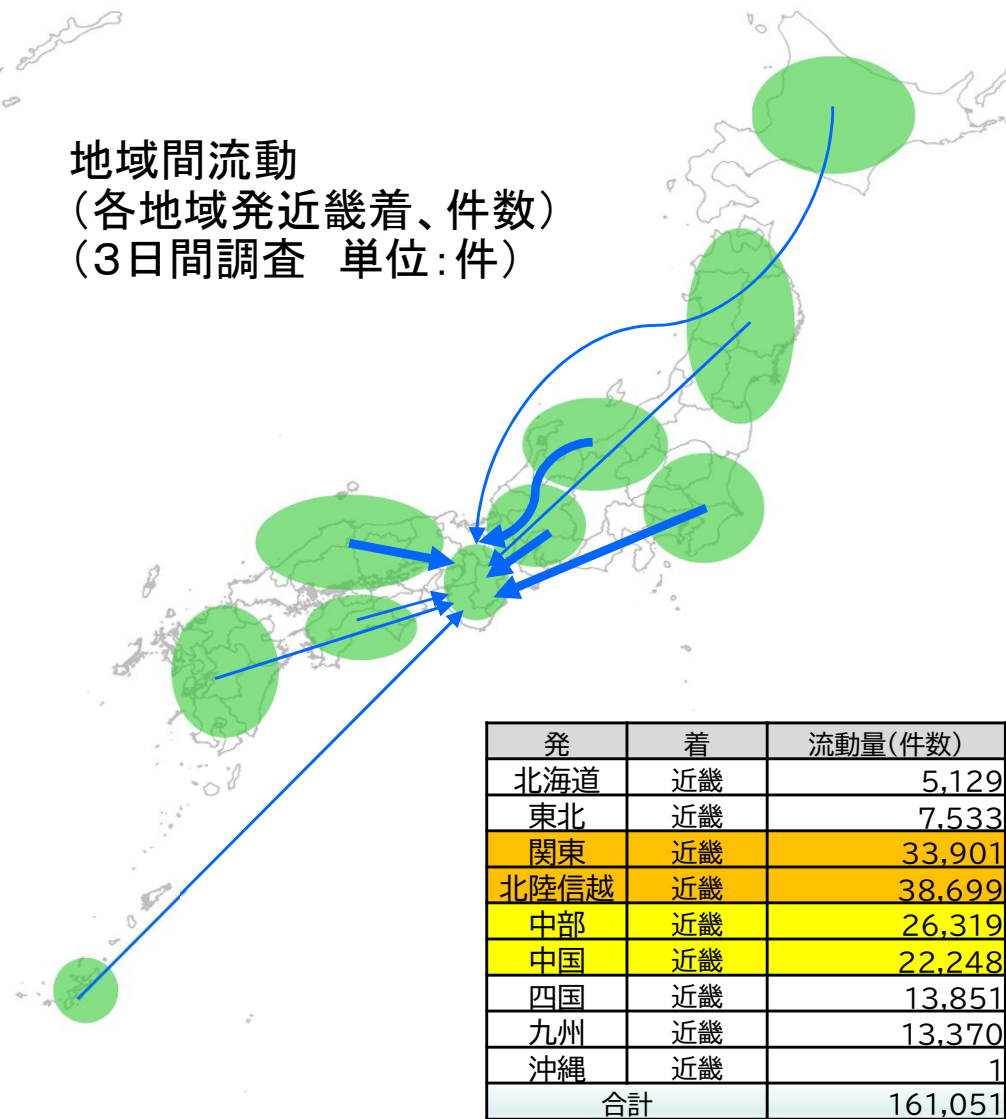
- 近畿発は関東、中部間の流動が最も多く、近畿着は関東、北陸信越間の流動が多い
- 近畿発が近畿着の2.6倍程度と圧倒的に流動が多い

→ 0~2万件
 → 2~4万件
 → 4万件以上

地域間流動
(近畿発各地域着、件数)
(3日間調査 単位:件)



地域間流動
(各地域発近畿着、件数)
(3日間調査 単位:件)

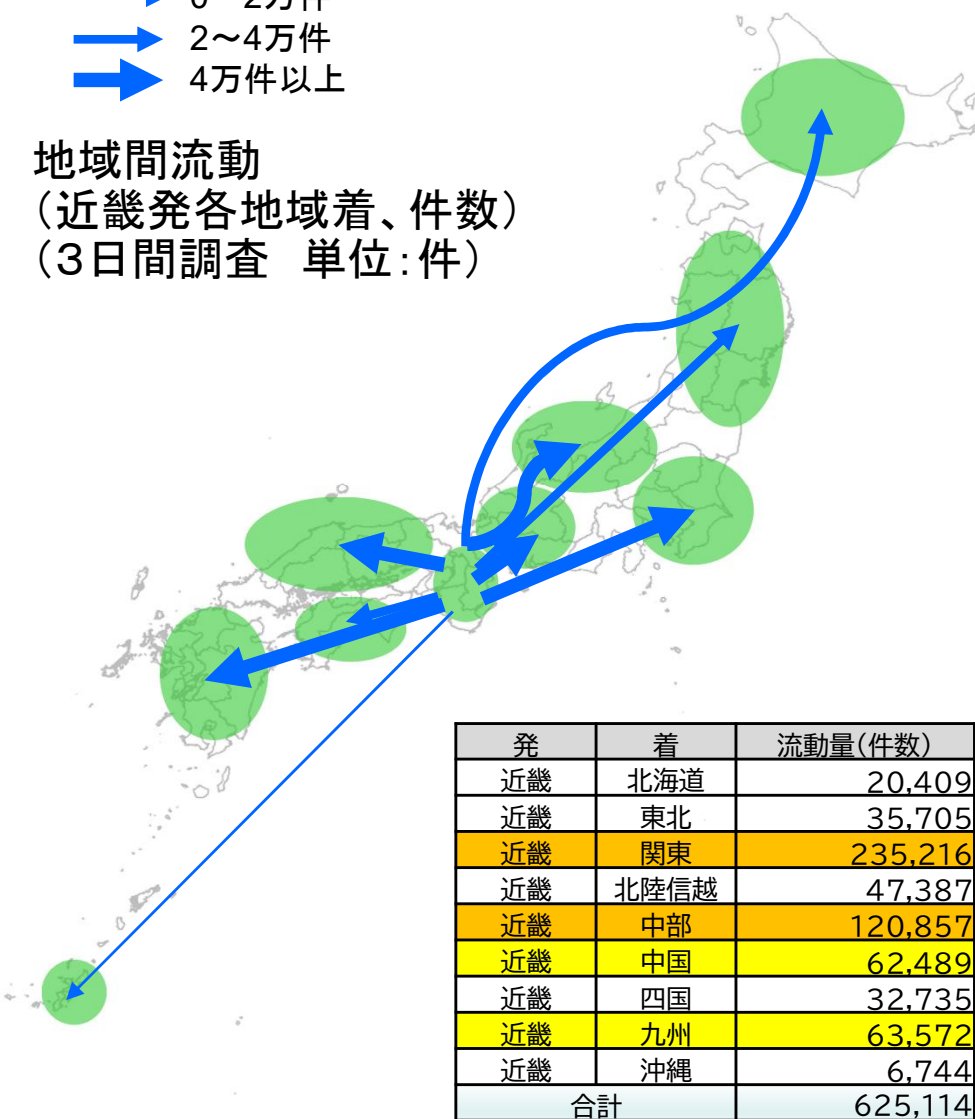


4. 近畿発着における流動量の状況(雑工業品)

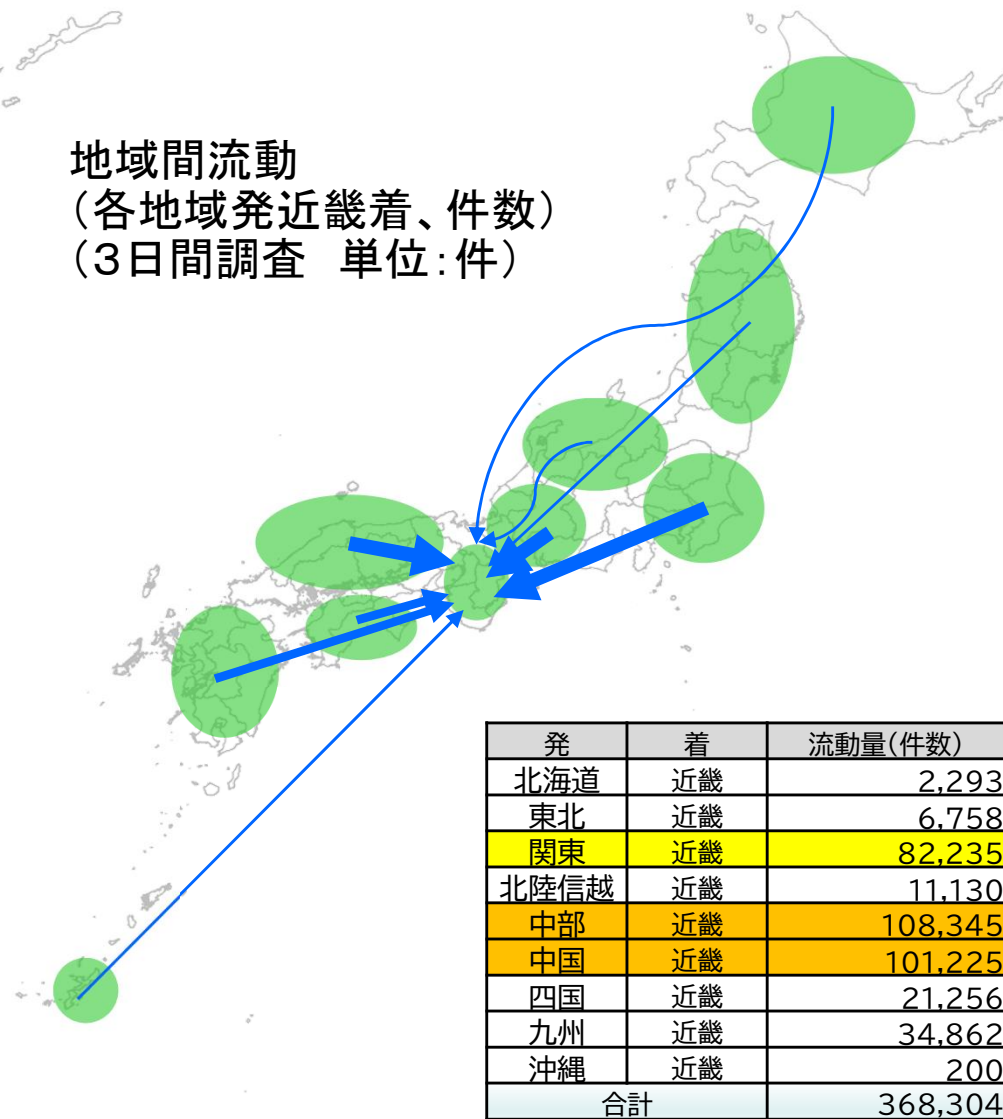
- 近畿発は関東、中部間の流動が最も多く、近畿着は中部、中国間の流動が多い
- 近畿着より近畿発の流動が多い

→ 0~2万件
 → 2~4万件
 → 4万件以上

地域間流動
(近畿発各地域着、件数)
(3日間調査 単位:件)



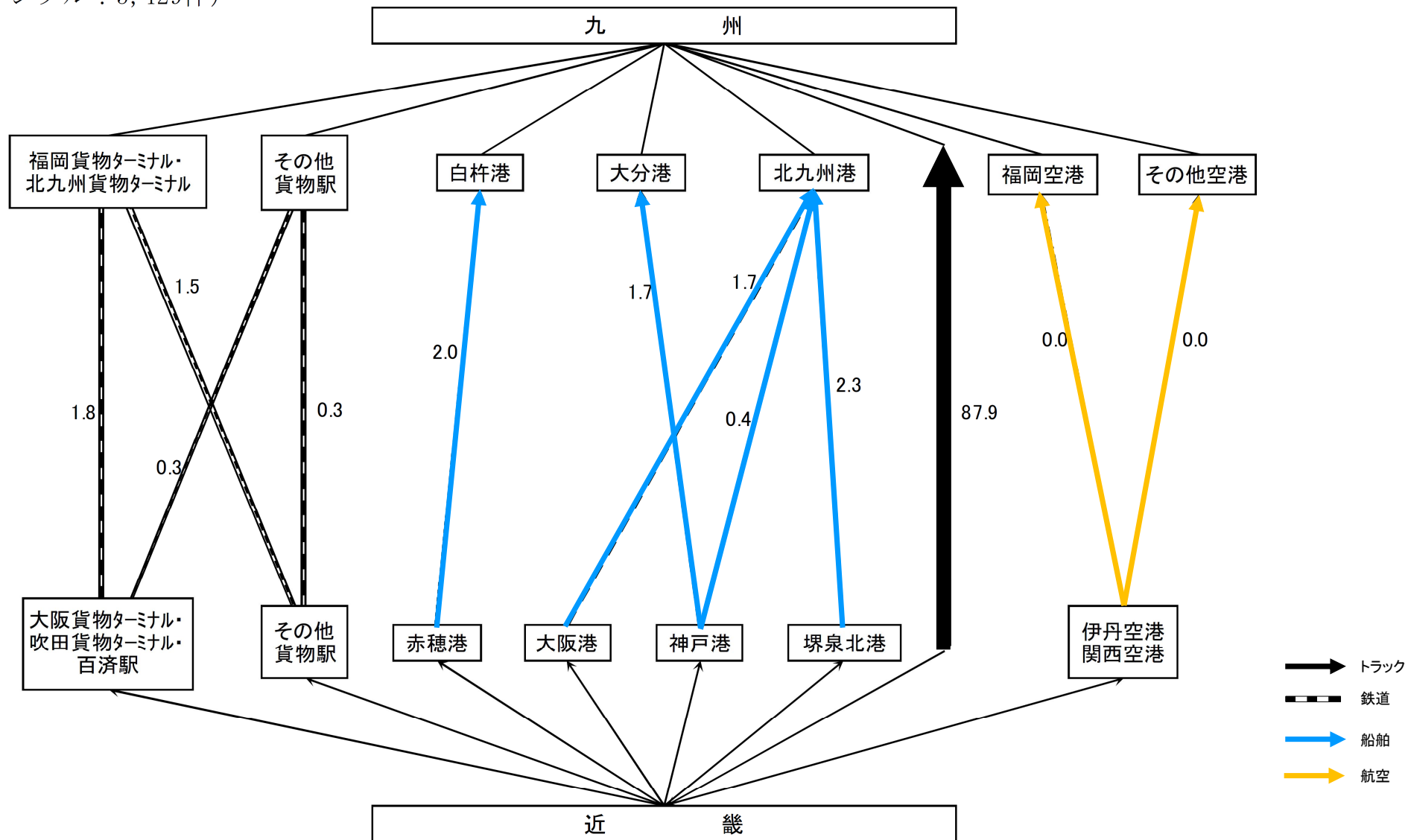
地域間流動
(各地域発近畿着、件数)
(3日間調査 単位:件)



5. 近畿圏発の輸送モード(近畿圏→九州、軽・雑工業品)

○ 近畿発九州向けの場合は、トラック利用が87.9%を占めており、鉄道利用は3.9%、船舶の利用は6.1%にとどまっている。

【近 畿 → 九 州：2015年】
(サンプル：5,429件)



出典:国土交通省「第10回全国貨物純流動調査 報告書」より作成

以降非公開